

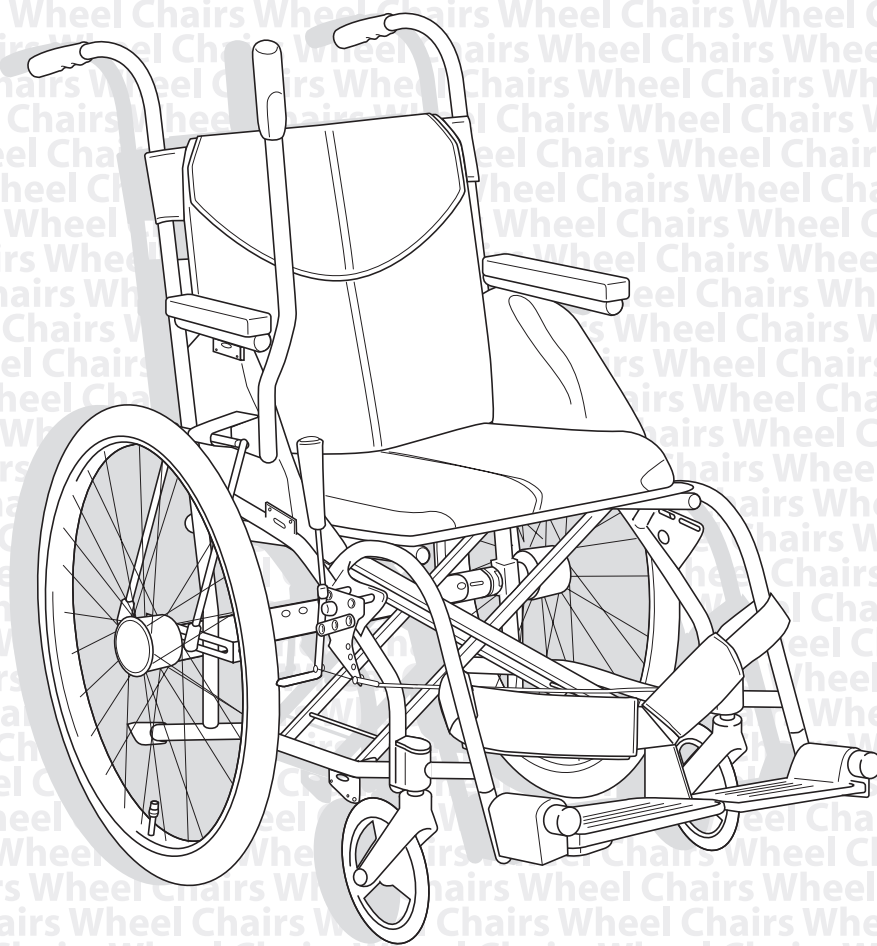
マツナガの片手用車いす

ワンハンドスカル OH-1

取扱説明書

保存用

保証書付



⚠ 注意

- この車いすは室内専用車いすです。室内での使用を想定し、設計・製作をしております。万一、屋外で使用する場合には、十分に注意し、使用後は各部を点検してお使いください。

平坦な広い場所で、練習してからご使用ください。



MATSUNAGA

このたびは、(株)松永製作所の製品をお買い上げいただき、ありがとうございます。

この取扱説明書には、お客様が安全に正しくご使用していただくために必要な注意事項や使用方法が説明してあります。ご使用になる前には必ずお読みください。また、保証書が付いていますので紛失しないように大切に保管し、必要に応じてお読みください。

車いすがお身体に合わない場合には、ご使用にならないでください。(健康をそこなう恐れがあります。) そのような場合には、購入されたお店、または、かかりつけの病院にご相談ください。

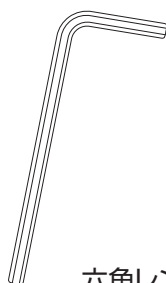
- お買い上げの製品は改良などにより、この「取扱説明書」の内容と一部異なる場合があります。
- ご不明な点がございましたら、お買い上げの販売店または、直接弊社までお問い合わせください。

以下の物が同梱されているか、確認してください。

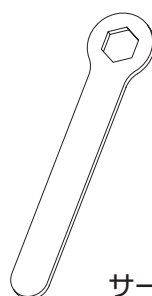
付属品



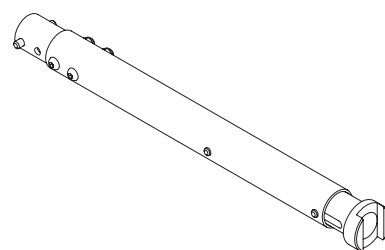
取扱説明書



六角レンチ
(対辺4mm)



サービススパナ
(対辺13mm)



連結棒

- 万一、不足品がありましたら、すぐにお買い上げの販売店、または松永製作所にご連絡ください。

ご使用前に

出荷時には検査をしておりますが、ご使用前に次のご確認をお願いいたします。

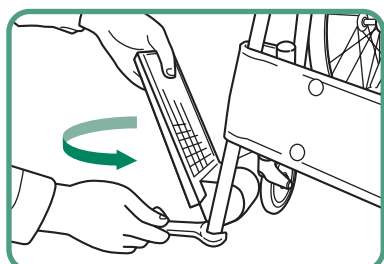
- 箱が破損したり、濡れたりしていないか。
- 各部の破損・キズ、フレームのゆがみ、ボルト・ナットや部品の脱落はないか。
- 付属品はすべて揃っているか。
- タイヤの空気圧は適正か。(タイヤを指で押さえ確認してください。)(P.5 参照)

もし異常があればご使用にならず、すぐにお買い求めの販売店または、弊社までご連絡ください。

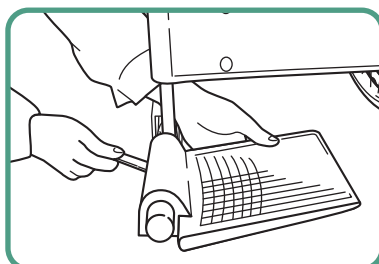
目次

安全にお使いになるためのご注意	2
寸法・機能・各部の名称	4
安全にお使いになるための使用方法	5
ご使用の前に	5
ブレーキの使用方法	5
車いすの拡げ方	6
車いすの折りたたみ方	7
車いすの乗り方・降り方	8
各部操作・調整の方法	9
フットサポートの調整(高さ&前後調整)	9
操作方法	10
介助の仕方	12
その他の注意事項	14
車いすのオプション	15
安全ベルト	15
もしこんなトラブルが発生したときは	16
車いすのお手入れの方法	17
保管場所	17
保証について	17
アフターサービス	17
車いす点検シート	18

●お買い上げ時(梱包時)にはフットサポートが収納されていますので、使用する前に前方に出してください。



フットサポートを付属品のスパナにて、先端ボルトを少し動くところまで緩める。



フットサポートを前方に回転し、高さ調整を行い先端ボルトを締める。

※高さ調整はP.9を参照してください。

※適正トルク
20Nm

安全にお使いになるためのご注意

安全に正しくご使用していただくための重要な事項です。その意味はつぎのようになっておりますので、内容をよくご理解のうえ、必ずお読みいただき正しくご使用ください。表示内容を無視して、誤った取扱いをした場合に生じる危険や損害の程度を説明しています。



警告

この表示を無視して誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定されることを示します。



注意

この表示を無視して誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性があることおよび物的損害の発生する可能性が想定されることを示しています。

お守りいただく内容の説明



この表示は、してはいけない「**禁止**」内容です。



この表示は、必ずしていただく「**強制**」内容です。

警告

(禁止)



しては
いけない

- 改造しないでください。
改造によって車いすの部品の破損、脱落などで安全性が低下して事故の原因となります。
- 故障、異常のあるときは、使用しないでください。
車いすが予期しない動きをしたり事故の原因となります。
- タイヤの空気圧が少ない状態で、使用しないでください。(→P.5)
ブレーキのロックが出来なくなり、車いすが動いたりして、事故の原因となります。
また、タイヤがパンクする原因となります。
- フットサポートの上に乗って乗り込んだり、降りるとき上に立ち上がらないでください。(→P.8)
車いすがバランスを崩し、転倒・転落事故の原因となります。
- 車いすのシートの上で立ち上がらないでください。(→P.14)
転倒・転落事故の原因となります。

(強制)



必ずして
いただく

- 道路の通行は、必ず右側を通行してください。(歩道がある場合は歩道を通行してください。)
道路交通法規を守らないと、交通事故の原因となります。
- 坂道の登り下りは、介助者に支えていただいで行ってください。
スピードが出たり、バランスが不安定になり、転倒・転落事故の原因となります。
- 車いすに乗る・降りる前や、ベッドへの移乗時には、必ずブレーキをロックしてください。(→P.5)
車いすが動き、転倒・転落事故の原因となります。
- 側溝の格子蓋や踏み切りなどでご使用される場合は、必ず介助者に支えていただいで行ってください。(→P.13)
車輪が溝にはまって、転倒・転落事故の原因となります。

⚠ 注意

(禁止)



しては
いけない

- 車いすを上げる時に、座パイプの横や下に、手や指を入れないでください。(→P.6)
パイプに手や指を挟んでケガをする原因となります。
- バックサポートに重いものを引っ掛けしないでください。(→P.6)
車いすが不安定になり、転倒・転落事故の原因となります。
- 操作レバーの小刻みな操作はしないでください。(→P.10)
- 操作レバーは必ずゆっくりと操作してください。(→P.10)
故障の原因となります。
- 操作レバーの可動部や前後リンクの連結部に、手や指・衣服等をはさまないように注意してください。(→P.11)
- タイヤを持って車いすを操作しないでください。(→P.11)
ブレーキ、操作レバーなどに手があたりケガをする原因となります。
- 走行中、身体を乗り出さないでください。(→P.11)
バランスが不安定になり、転倒・転落事故の原因となります。
- 車輪が回転しているときは、スポークに手や指を差し込まないでください。(→P.11)
手や指を挟んでケガをする原因となります。
- バックしながら、急停止しないでください。(→P.11)
転倒・転落事故の原因となります。
- 介助する場合にはバックサポートパイプのみでキャスト(前輪)を上げないでください。(→P.12)
バックサポートパイプが曲がったり折れたりして、転倒・転落事故の原因となります。
- スピードをつけて、段差を乗り越えようとししないでください。(→P.12)
使用者が車いすから転落して事故の原因となります。
- 火気の近くに置かないでください。(→P.14)
タイヤがパンクしたり、シートが燃え火災の原因となります。

(強制)



必ずして
いただく

- ブレーキレバーに外側や内側方向への力を加えないでください。(→P.5)
故障の原因となります。
- 車いすを上げた時、座パイプが受けに収まっているか、確認してから座ってください。(→P.6)
パイプが曲がったりして、転倒・転落事故及び故障の原因となります。
- 連結棒、車軸部で手や指などをはさまないように注意してください。(→P.6)
- 保管中は車いすが動いてしまわないように必ずブレーキをロックしてください。(→P.7)
- 車いすの乗り降りは、路面の平坦な場所で行ってください。(→P.8)
車いすが動いたりしてバランスを崩し、転倒・転落事故の原因となります。
- フットサポートが固定されているか、確認してから使用してください。(→P.9)
フットサポートが脱落し事故の原因となります。
- フットサポートの高さは地面より5cm以上でご使用ください。(→P.9)
路面の凹凸や障害物にフットサポートが引っかかり急に車いすが止まり、
転倒・転落事故の原因となります。
- 平坦な広い場所で、前進・後進・転回など練習をしてから、ご使用ください。(→P.10)
- 腕力・握力等、能力に合わせて運転技術をマスターし、順次運転時間を長くしてください。(→P.10)
- 筋肉痛などで腕が痛くなったときには、一時使用を中止してください。(→P.10)
- この車いすは室内専用です。屋外では出来るかぎり使用しないでください。(→P.12)
万一、使用される場合は十分に注意してください。
- スロープを下るとき介助者は車いすを後ろ向きにし、ゆっくり確認しながら走行してください。(→P.12)
前向きで下ると、乗っている人がずり落ちたり、前のめりとなり、転倒事故の原因となります。
- 側溝の格子蓋、踏み切りのレール溝にキャストが落ち込まないように注意してください。(→P.13)
車いすが急に止まり使用者の体が前方に傾き、転落・転倒事故の原因となります。
- 安全ベルト装着機種は、必ず安全ベルトを締めてください。(→P.15)
衝撃などで転落し事故の原因となります
- マジック式安全ベルトは、糸くずや汚れを取り除いてご使用ください。(→P.15)
粘着力が弱くなり衝撃を受けた時外れ、転落事故の原因となります。

寸法・機能・各部の名称

寸法

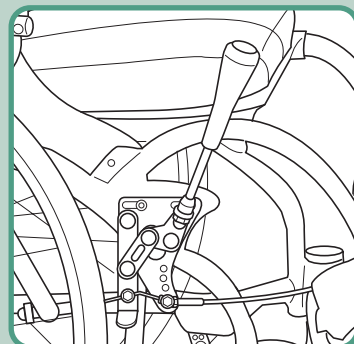
機種	キャスト (インチ)	大車輪 (インチ)	前座高 (m/m)	後座高 (m/m)	全長 (m/m)	全高 (m/m)	全幅 (m/m) (※)	折畳み幅 (m/m) (※)	重量 (kg) (※)
OH-1	6	22×1	470	450	1030	965	620	325	16.3

※座幅400mmの場合

機能

機種	タイプ	バックサポート	ブレーキ
OH-1	レバー駆動型	固定	ワンハンド

〈ワンハンドブレーキ〉



車いすが動かないようにするために使用します。
片側の操作で両輪ともロックできます。

各部の名称

操作レバー

このレバーを操作して、車いすを動かします。

操作方法 P.10

グリップ

介助者が押すために使用します。

バックサポートパイプ

連結棒

駆動力を駆動レバーと反対側の車軸へ伝えます。車いすを折りたたむ際には、取り外してください。

取り付け方 P.6 外し方 P.7

ティッピングレバー

介助者が段差を乗り越えさせるときに使用します。

使用方法 P.12

駆動輪

駆動力を伝える車輪

ブレーキ

乗り降りの時、車いすが動かないようにするために使用します。

ブレーキの使用方法 P.5

キャスト

バックサポート(背もたれ)

背をもたれかけるところです。

折りたたみ方 P.7

アームサポート

肘を乗せるところです。

高さ調節 P.8

シート(座)

座るところです。

レッグサポート

足が後方に落ちないように保護します。

フットサポート

足をのせるところです。

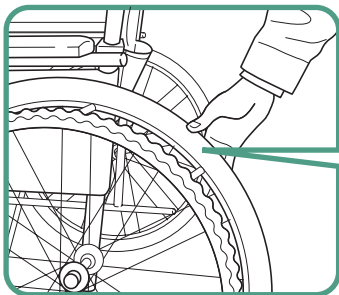
フットサポートの調整 P.9

安全にお使いになるための使用方法

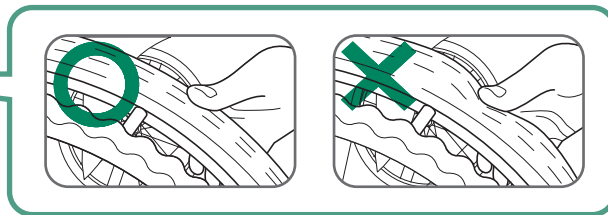
ご使用前に

■ご使用前に、安全にご使用していただくため、次の確認をお願いします。

- ・タイヤの摩耗・亀裂はないか。
- ・タイヤの空気圧は適正か。
- ・ブレーキに異常はないか。
- ・ブレーキをロックした時、駆動輪・主輪が回転しないか。



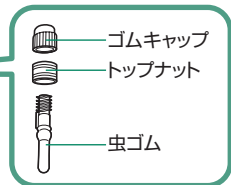
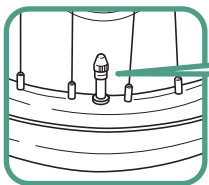
タイヤを親指で押し、容易にへこむ場合は、自転車用空気入れで補充してください。



適正空気圧
●22インチ
760kPa
(7.6kgf/cm²)

タイヤの空気バルブの
トップナットが緩んで
いないか確認してください。

タイヤの空気がすぐに抜けるときは、
虫ゴムを交換してください。
(自転車と共通です。)



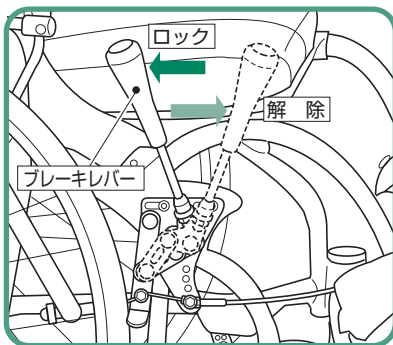
警告

- タイヤの空気圧が少ない状態で、
使用しないでください。
(ブレーキのロックが出来なくなり、
車いすが動いたりして、事故の原因
となります。また、タイヤのパンクの
原因となります。)

してはいけない

ブレーキの使用方法

ワンハンドブレーキ



- ブレーキレバーを後方に引くとロックします。
- ロックした方向と反対に押すと解除します。

警告

- タイヤの空気圧が少ない状態で、使用しないでください。
(ご使用前にを参照)
(ブレーキのロックが出来なくなり、車いすが
動いたりして、事故の原因となります。)

してはいけない

警告

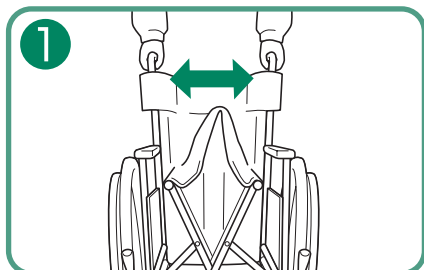
- 車いすに乗る・降りる前や、ベッドへの移乗時等には、
必ずブレーキをロックしてください。
(車いすが動き、転倒・転落事故の原因となります。)

していただく

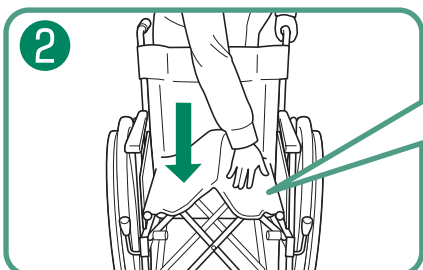
安全にお使いになるための使用方法

車いすの拡げ方

① 車いすの後方に立ち、左右のグリップを持って両側に拡げます。



② 片側のグリップを手で持ち、シートを手で下に押し下げると、車いすが拡がります。



※手・指に注意

⚠ 注意

●車いすを拡げる時に、座パイプの横や下に、手や指を入れないでください。
(パイプに手や指を挟んでケガをします。)

してはいけない

⚠ 注意

●車いすを拡げた時、座パイプが受けに収まっているか確認して座ってください。
(パイプが曲がったりして、転倒・転落事故及び故障の原因となります。)

していただく

⚠ 注意

●バックサポート(グリップ)に重いものを引っかけないでください。
(車いすが不安定になり、転倒・転落事故の原因となります。)

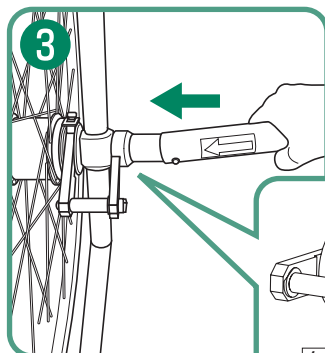
してはいけない

連結棒の取り付け方

※説明は右操作の場合です。左操作の場合は逆になります。

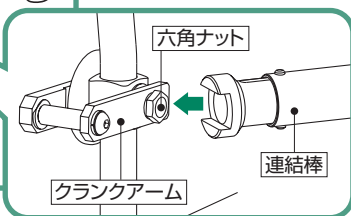
■必ず、車いすを完全に拡げた状態で行ってください。

③ 連結棒の矢印(←)マーク側を操作レバー反対側車軸にセットし押し込みます。

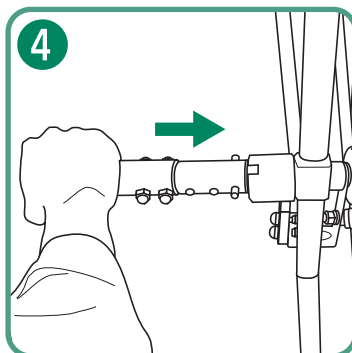


(図は右操作の場合)

六角ナットを連結棒の中心に合わせ、連結棒の凹部をクランクアームにはめます。

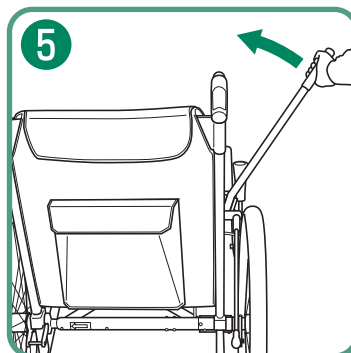


④ 連結棒を押し込んだまま、操作レバー側の車軸にセットします。



(図は右操作の場合)

⑤ 操作レバーを起こすと「カチャ」と音がして、取り付け完了です。



(図は右操作の場合)

⚠ 注意

●連結棒、車軸部で手や指などはさまないように注意してください。

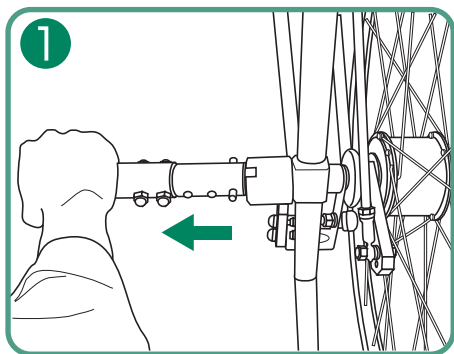
していただく

車いすの折りたたみ方

連結棒の外し方

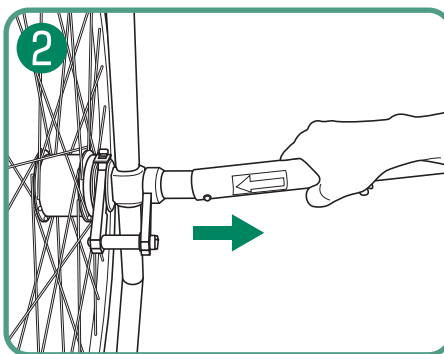
※説明は右操作の場合です。左操作の場合は逆になります。

- ① 連結棒を矢印(←)の方向へ押し込み、操作レバー側車軸から外します。



(図は右操作の場合)

- ② つづいて操作レバー反対側も車軸から外します。



(図は右操作の場合)

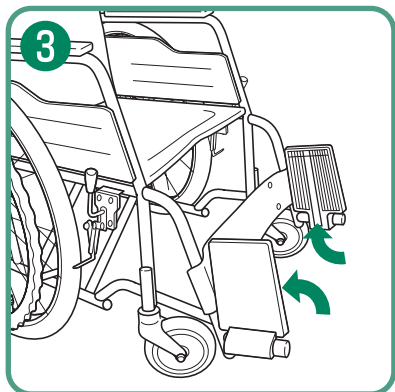
- 連結棒をなくさないように、背ポケットに入れておくことをおすすめします。

⚠ 注意

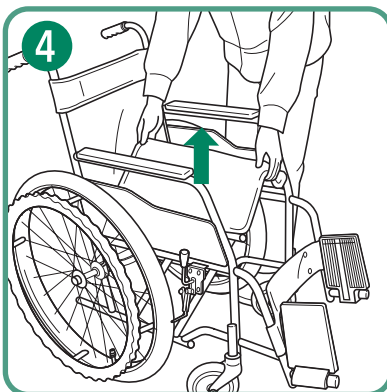
- 連結棒、車軸部で手や指などはさまないように注意してください。

していただく

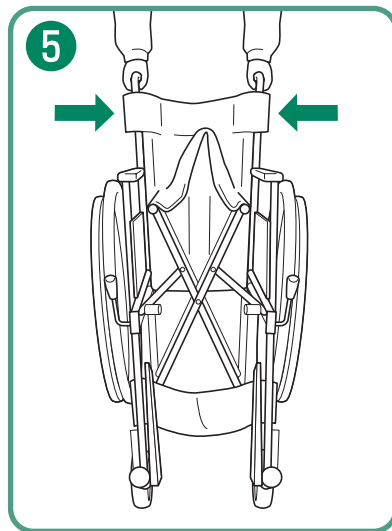
- ③ フットサポートを矢印方向に回転させて上げる。



- ④ シートの前方と後方の中央を同時に持ち上げる。



- ⑤ 左右のグリップを持ち内側にたたむ。



⚠ 注意

- 保管中は車いすが動いてしまわないように、必ずブレーキをロックしてください。また保管場所にはご注意ください。(P.17)

していただく

車いすの乗り方・降り方



警告

- 車いすに乗る・降りる前や、ベッドへの移乗時には、必ずブレーキをロックしてください。
(車いすが動き、転倒・転落事故の原因となります。)

していただく



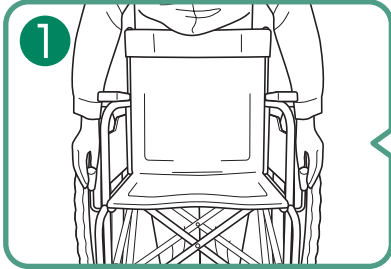
注意

- 車いすの、乗り降りときは、路面の平坦な場所で行ってください。
(車いすが動き、バランスを崩し、転倒・転落等事故の原因となります。)

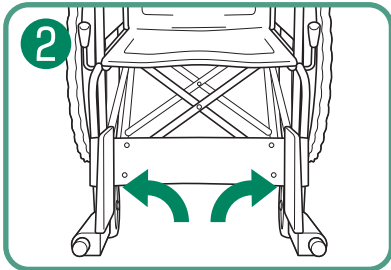
していただく

乗る場合

- 1 ブレーキをロックする。



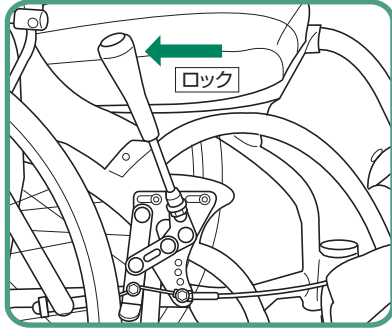
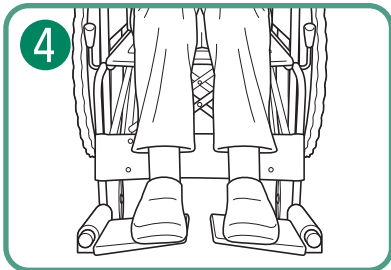
- 2 フットサポートを両側上げる。



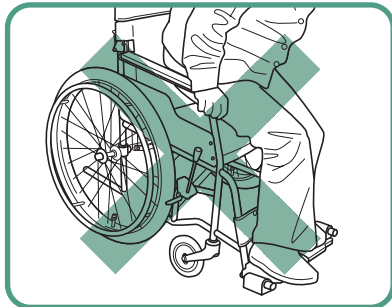
- 3 アームサポートを持ち
ゆっくり座り込む。



- 4 フットサポートに足を乗せる。

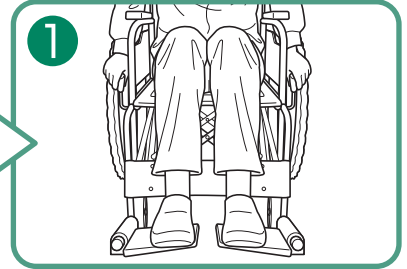


左右どちらか一方のロックで両輪
固定されます。(P.5参照)

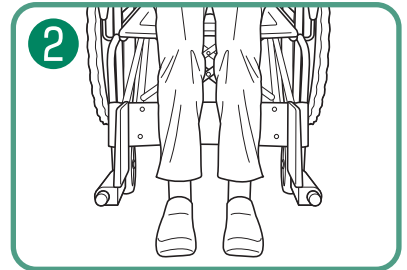


降りる場合

- 1 ブレーキをロックする。



- 2 フットサポートを上げ、足を下ろす。



- 3 アームサポートを持ち
ゆっくり立ち上がる。



警告

- フットサポートの上に乗って、乗り込んだり、降りるとき上に立ち上がらないでください。
(車いすが、バランスを崩し、転倒事故の原因となります。)

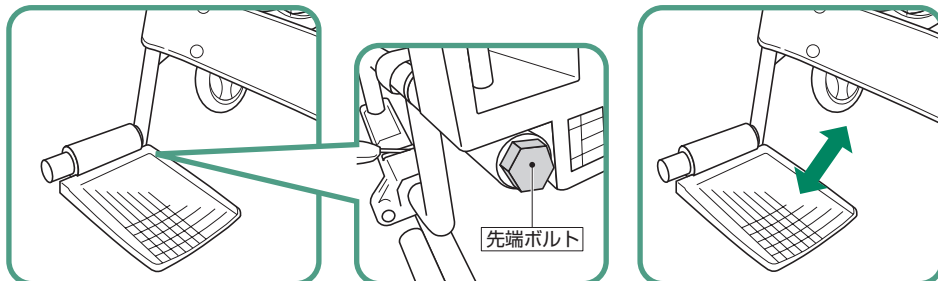
してはいけない

各部操作・調整の方法

フットサポートの調整

高さ(長さ)の調整

●使用者の体格に合わせて、高さを調整することができます。



フットサポートを少し上げ、付属品のスパナで先端ボルトを少し動かすところまで緩める。

〈フットサポート裏側から見た図〉

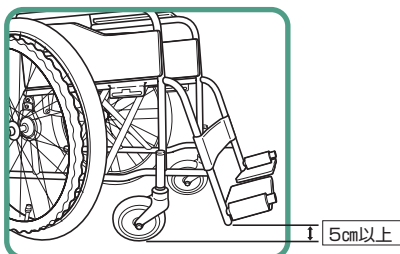
高さを調整し、先端ボルトを締める。

※適正トルク
20Nm

注意

●フットサポートが固定されているか、確認してから使用してください。
(フットサポートが脱落し事故の原因となります。)

していただく



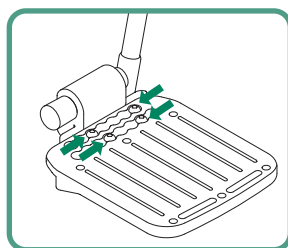
注意

●フットサポートの高さは地面より5cm以上でご使用ください。
(路面の凹凸や障害物にフットサポートが引っかかり急に車いすが止まり、転倒の事故の原因となります。)

していただく

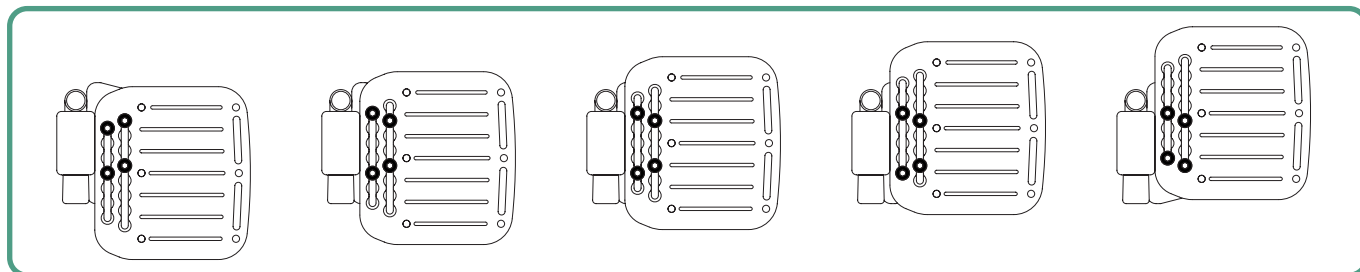
前後調整

●フットサポートの位置を前後5段階に調整することができます。



- ・付属の六角レンチ(対辺4mm)で4本のボルトを外してください。
- ・位置が決まりましたら、下図のようにボルト位置をできるだけ離して締めてください。

※適正トルク
7Nm



注意

●フットサポートが固定されているか確認してください。
(フットサポートが外れ事故の原因になります。)

していただく

操作方法

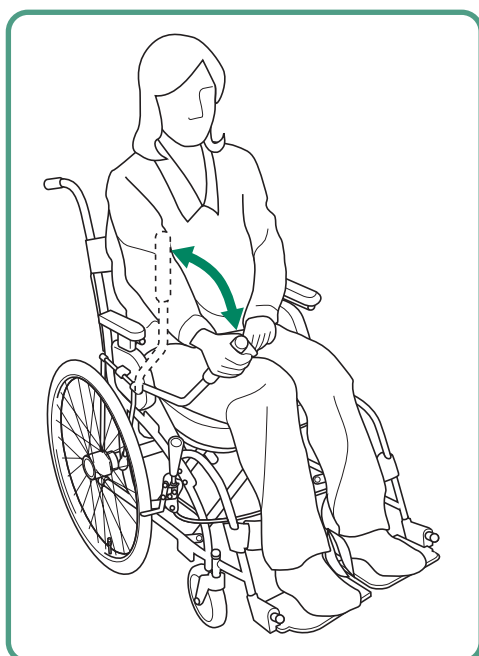
⚠ 注意

- 平坦な広い場所で、前進・後進・転回など練習をしてから、ご使用ください。
- 腕力・握力等、能力に合わせて運転技術をマスターし、順次運転時間を長くしてください。
- 筋肉痛などで腕が痛くなったときには、一時使用を中止してください。

していただく

- 下記のように進みたい方向に倒すことで車いすを動かすことができます。

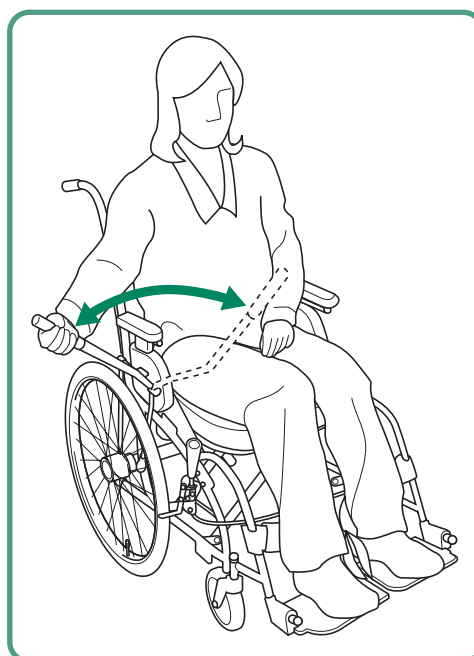
〈前進・後進〉



(図は右操作)

- 必ず操作レバーを垂直にした状態から
前進の場合は前へ } ゆっくりと大きく倒してください。
後進の場合は後へ }
操作を繰り返すと前進(または後進)します。

〈左右転回〉



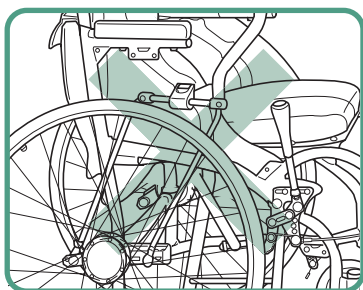
(図は右操作)

- 必ず操作レバーを垂直にした状態から
右転回の場合は右へ } ゆっくりと倒してください。
左転回の場合は左へ }
操作を繰り返すと右転回(または左転回)します。
真横に倒す操作を繰り返すとその場で転回することができます。

⚠ 注意

- 操作レバーの小刻みな操作はしないでください。
- 操作レバーは必ずゆっくりと操作してください。(故障の原因になります。)

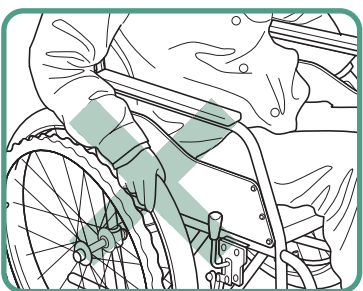
してはいけない



! 注意

- 操作レバーの可動部や前後リンクの連結部に、手や指・衣服等をはさまないように注意してください。

してはいけない



! 注意

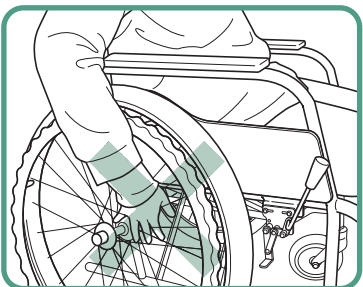
- タイヤを持って車いすを操作しないでください。
(ブレーキ操作レバーなどに手があたり、ケガをする原因となります。)

してはいけない

! 注意

- 走行中、身体を乗り出さないでください。
(バランスが不安定になり、転倒、転落事故の原因となります。)

してはいけない

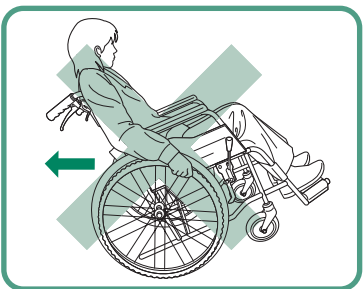


! 注意

- 車輪が回転しているときは、スポークに手や指を差し込まないでください。
(手や指をはさんで、ケガをする原因となります。)

してはいけない

このような場合には、スポークカバー(オプション)の使用をおすすめします。
(P.15)



! 注意

- バックしながら急停車しないでください。
(転倒事故の原因となります。)

してはいけない

介助の仕方

⚠️ 注意

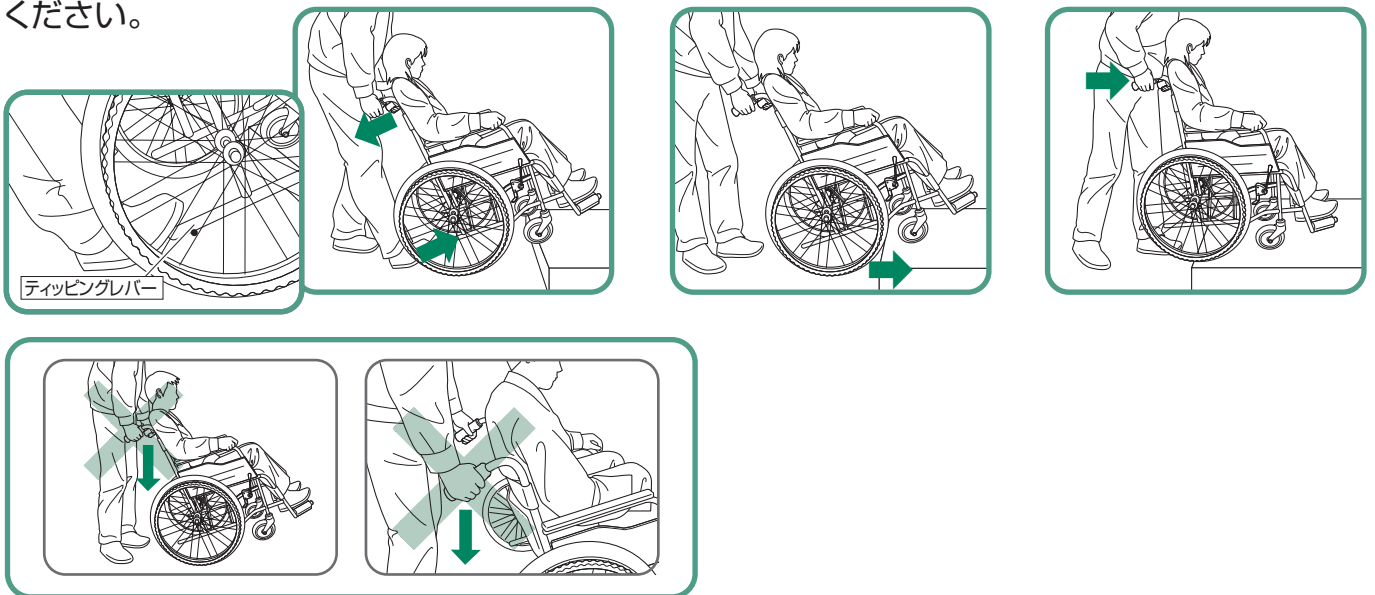
●この車いすは室内専用です。屋外では出来るかぎり使用しないでください。(万一、使用する場合には、十分に注意し、下記の内容をお守りください。)

していただく

次のような使用場所や環境では、危険が伴う場合がありますので、必ず介助者が付き添ってください。

- ・坂道の登り下り
- ・踏切の横断
- ・側溝の格子蓋の横断
- ・悪路
- ・凸凹道
- ・電車への乗車、下車
- ・段差乗り越え
- ・路面が片側に傾斜しているところの走行

介護者の方は、段差を乗り越える場合、テッピングレバーを斜め前に踏みながらグリップを手前に引きキャスト(前輪)を上げ、前輪を段差に乗せてから、後輪を段差に当て、押しながら乗り越えてください。



⚠️ 注意

●バックサポートパイプのみで、キャスト(前輪)を上げないでください。(バックサポートパイプが曲がったり、折れたりして、転倒して事故の原因となります。)

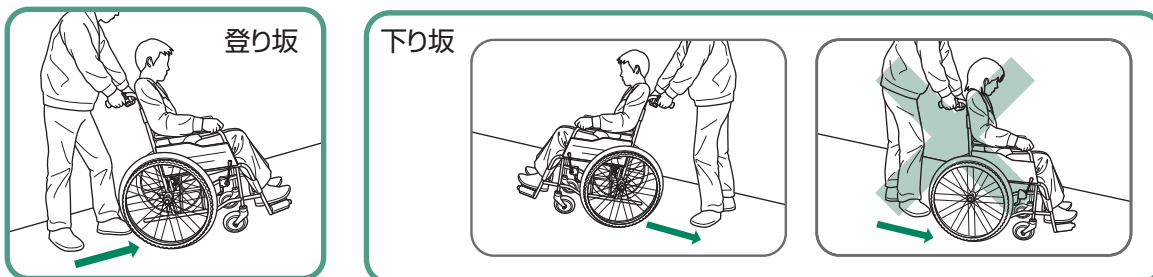
してはいけない

⚠️ 注意

●スピードをつけて、段差を乗り越えようとししないでください。(使用者が車いすから、転落して事故の原因となります。)

してはいけない

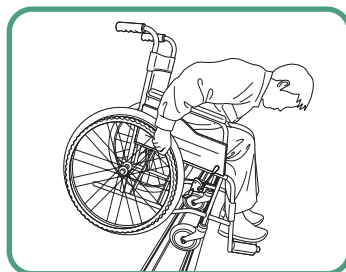
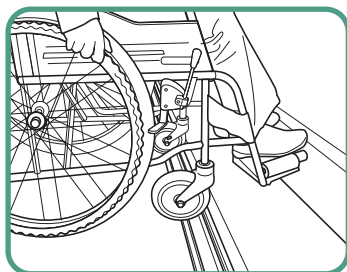
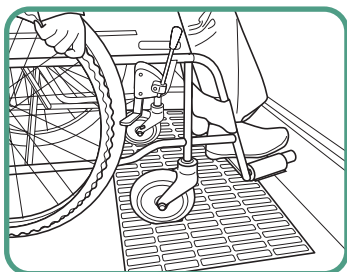
スロープの登り下りでご使用される場合は、必ず介助者に支えていただいでください。



⚠️ 注意

●スロープを下るとき介助者は車いすを後ろ向きにし、ゆっくり確認しながら走行してください。(前向きで下ると、乗っている人がずり落ちたり、前のめりとなり、転倒事故の原因となります。)

していただく



警告

- 側溝の格子蓋や踏み切りなどでご使用される場合は、必ず介助者に支えていただいでください。
(車輪が溝にはまって、転倒・転落事故の原因となります。)

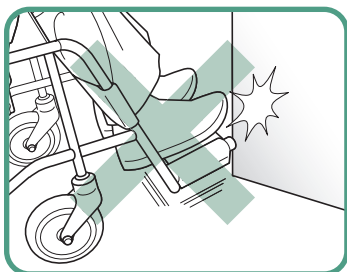
していただく

注意

- 側溝の格子蓋、踏み切りのレール溝にキャストが落ち込まないように注意してください。
(車いすが急に止まり使用者の体が前方に傾き、転落・転倒事故の原因となります。このような環境条件でご使用される場合は、ワイドキャスト(オプション)をご使用ください。)

していただく

【介助者の方へ】



注意

- 移動中、つま先が障害物に当たらないように、確認して走行してください。

していただく

注意

- フットサポートに、足が乗っているか確認して走行してください。

していただく

■階段など、使用者が乗ったままの状態、介助者に吊り上げてもらう場合



ベースパイプ・バックサポートパイプの固定されている箇所を持って、4~5人で支えてもらってください。

注意

- 必ず固定されている場所を持ってください。
操作レバー、ブレーキなど持たないでください。

していただく

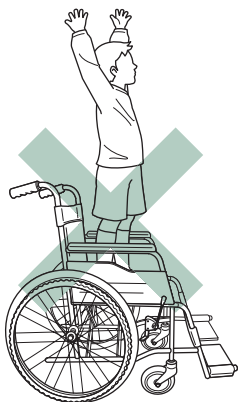
注意

- 車いすを持ち上げたときに座面の水平を保ち乗っている人の転落には十分注意してください。

していただく

重量がある場合には、人と車いすを別々に移動してください。

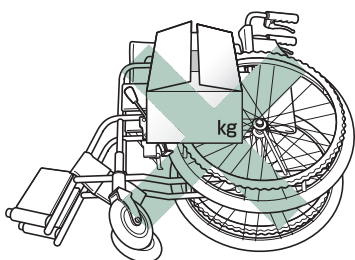
その他の注意事項



警告

- 車いすのシートの上で立ち上がらないでください。
(転倒事故の原因となります。)

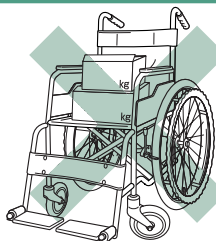
してはいけない



注意

- 車いすを、横向きに倒して上に物を置かないでください。
(重みで車輪フレームが、曲がったりして故障の原因となります。)

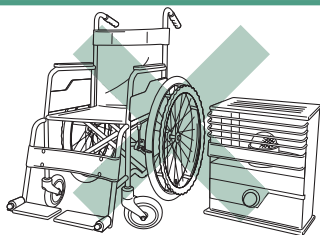
してはいけない



注意

- 車いすで荷物を運んだりしないでください。

してはいけない



注意

- 火気の近くに置かないでください。
(タイヤがパンクしたり、シートが燃え火災の原因となります。)

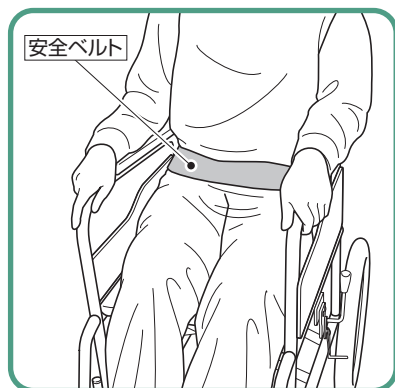
してはいけない

車いすのオプション

車いすをより使いやすくするために、いろいろなオプションが用意してあります。
(車いすにより取り付けできない場合がございます。販売店、または松永製作所までご相談ください。)

安全ベルト

●使用者が、車いすから転落したり、ずり落ちるのを保護します。



⚠ 注意

●安全ベルト装着機種は、必ずシートベルトを締めてください。
(衝撃などで転落し事故の原因となります。)

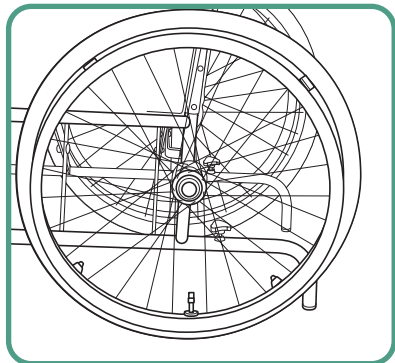
していただく

⚠ 注意

●マジック式安全ベルトは、糸くずや汚れを取り除いてご使用ください。
(粘着力が弱くなり、衝撃を受けた時外れ、転落事故の原因となります。)

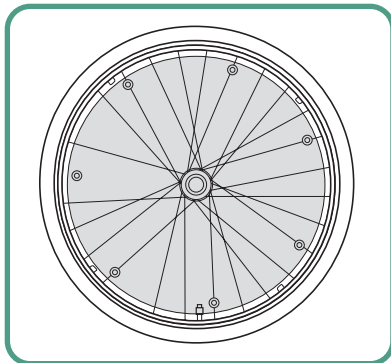
していただく

転倒防止



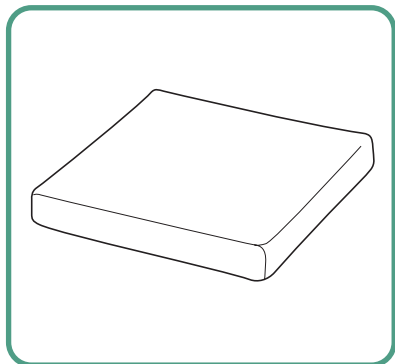
車いすが後方へ倒れるのを防止します。

スポークカバー



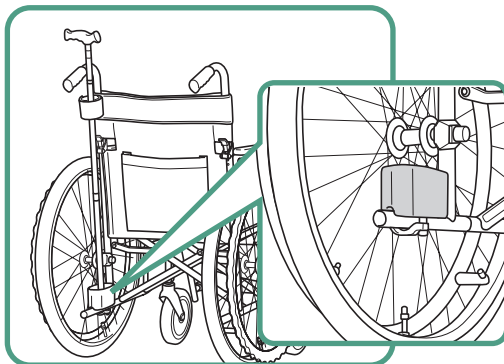
車輪(スポーク)に手を入れケガをする事を防止します。

クッション



体重の圧力を分散し、快適に座ることができます。
(いろいろな種類があります。)

杖入れ



車いす後方に、杖を収納することができます。

その他にも

- ガートル架
 - ポンベ架
 - 泥よけ など
- ご用意しております。

一部改造が必要な物があります。

もしこんなトラブルが発生したときは

車いすをご使用されていて故障かなと、思うトラブルが発生したら、修理を依頼するまえに下記項目を確認してください。

トラブル	確認点	対処
空気を入れてもすぐに抜ける	・タイヤの空気入れ部のトップナットは、しっかり締まっていますか	しっかり締め直してください (P.5)
	・虫ゴムが劣化していませんか	虫ゴムを交換してください (P.5)
走行操作が重い	・タイヤの空気圧は適正ですか	空気を入れてください (P.5)
	・駆動輪・キャストに髪の毛、ビニールが巻きついていませんか	取り除いてください
折り畳みができない	・連結棒を取り外しましたか	連結棒を取り外してください (P.7)
	・ポケットの中に物が入っていませんか	取り除いてください
走行できない	・連結棒がついていますか	連結棒を取り付けてください (P.6)
ブレーキが効かない	・タイヤの空気圧は適正ですか	空気を入れてください (P.5)
	・タイヤは摩耗していませんか	取扱店に連絡してください
	・片側のみ効きが悪い	取扱店に連絡してください

車いすのお手入れの方法

■清掃は、水につけたタオルを強くしぼり、泥やホコリを拭き取った後に乾いた布で仕上げ拭きをしてください。

揮発性剤（シンナー・ベンジン・アルコール類）では、清掃しないでください。変色したり、劣化の原因となります。

ホースなどで、直接水をかけないでください。車輪及びフレーム内部・ブレーキ部等に水滴が残り、錆の原因となります。

■タイヤは、最適空気圧を適正に保ってください。（P.5）

空気圧が少ないときは、補充してください。

■タイヤには、ひび割れを防ぐために老化防止剤が配合されていますので、次のような環境及び薬剤はさけてください。タイヤの劣化を促進させ、ひび割れの発生原因となります。



- オゾン (O₃)
- 光線(日光)、熱・伸張等の機械的作用。
- 銅・マンガンのような金属の塩、石鹼などの容易に酸化される物質。
- シリコン系ワックス（自動車タイヤ用ツヤ出し剤、潤滑剤、錆落としなど）。

■車いすに異常がある場合は、取扱店で、点検・修理をおこなってください。

その状態で使用されますと、使用中に破損し、事故の原因となります。

- タイヤの劣化・ひび割れ・エア漏れ
- フレームのひび割れ・曲がり・ガタツキ
- 各部固定部品の変形
- 駆動輪・キャストの変形
- ボルト・ナット・ビスの緩み
- キャリパーブレーキ・ブレーキの効き具合

保管場所

次のようなところでは、保管しないでください。

故障の原因となります。

- 雨に濡れるようなところ
- 直射日光が当たるようなところ
- 湿気の多いところ
- 高温室になるところ
- 炎天下なところ

保証について

●保証期間は、お買上げ後1カ年です。（本体、付属品共）

ただし、次の場合は、保証期間中でも有償修理とさせていただきます。

1. 火災、天災による故障・損傷の場合
2. 取扱説明書に記載の使用方法、ご注意に反するお取扱いによって発生した故障の場合
3. 無断仕様変更及び、改造による故障の場合
4. タイヤの摩耗、パンク、シートのやぶれ、ブレーキ、ブレーキ用ワイヤー等の消耗品、及び各部の劣化による故障、損傷の場合
5. 修理に要した運賃等の諸経費

●この保証書は日本国内のみ有効です。

アフターサービス

万一故障の場合は、お買上げいただきました販売店、または松永製作所へ保証書ご持参の上、修理をお申しつけください。

車いす 点検シート

安全にご使用していただくために、ご自身・お買い求めの販売店(有料)で定期的に点検をしていただくようお願いいたします。

(長期間ご使用にならなかった場合は、ご使用前に点検をしてください)

点検の結果、異常があった場合はご使用にならず、調整・部品交換をしてからご使用ください。

点検項目		年月日				
		点検者				
キャスタ(前輪)	亀裂・キズの有無					
	キャスタの摩耗					
	スムーズな回転					
フォーク	損傷の有無					
	スムーズな旋回					
後輪	タイヤの空気圧					
	タイヤの摩耗					
	スムーズな回転					
	スポークの緩み(自走のみ)					
フレーム	各部キズの有無					
	ボルト・ナットの緩み					
	スムーズな折畳み					
操作部	可動部のガタツキ					
	ボルト・ナットの緩み					
連結部	ガタツキ					
ブレーキ	ブレーキの効き					
シート	シートの破れ・損傷					
	シート固定ネジの緩み					
フットサポート	固定ボルトの緩み					
	プレートの破損					
アームサポート	固定ボルトの緩み					
	パッドの破損					
その他						